

公衆衛生看護学実習記録

市町村・地域包括支援センター

実習場所	市町村名：		
実習期間	年 月 日 ~ 年 月 日		
大学名	九州看護福祉大学 看護福祉学部看護学科		
学籍番号		氏名	
担当教員名			

公衆衛生看護学実習記録 保健所

実習場所	保健所名：		
実習期間	年 月 日	～	年 月 日
大学名	九州看護福祉大学 看護福祉学部看護学科		
学籍番号		氏 名	
担当教員名			

公衆衛生看護学実習レポート

公衆衛生看護学実習での学びと自己の変化

実習場所	市町村名：	保健所名：	
実習期間	年 月 日 ~	年 月 日	
大学名	九州看護福祉大学 看護福祉学部看護学科		
学籍番号		氏名	
担当教員名			

年度 出席表 実習施設名(市町村: 保健所:)

週数	月日	曜日	実習場所	学生氏名				確認印
1 週目	7 月 22 日	月	市町村					
	7 月 23 日	火						
	7 月 24 日	水						
	7 月 25 日	木						
	7 月 26 日	金						
2 週目	7 月 29 日	月	市町村					
	7 月 30 日	火						
	7 月 31 日	水						
	8 月 1 日	木						
	8 月 2 日	金	学内					
3 週目	8 月 26 日	月	保健所					
	8 月 27 日	火						
	8 月 28 日	水						
	8 月 29 日	木						
	8 月 30 日	金						
4 週目	9 月 2 日	月	学内					
	9 月 3 日	火	市町村 (地域包 括支援セ ンター)					
	9 月 4 日	水						
	9 月 5 日	木						
	9 月 6 日	金						
5 週目	9 月 9 日	月	市町村					
	9 月 10 日	火						
	9 月 11 日	水						
	9 月 12 日	木						
	9 月 13 日	金						

※ 学生は実習施設に着いたら毎日捺印する。確認印の欄に指導者から捺印をもらう

年度 実習計画書(個人用) 施設名()

週数	月日	曜日	実習場所	事業予定	
				午前	午後
1週目	7月22日	月	市町村		
	7月23日	火			
	7月24日	水			
	7月25日	木			
	7月26日	金			
2週目	7月29日	月	市町村		
	7月30日	火			
	7月31日	水			
	8月1日	木			
	8月2日	金	学内日		
3週目	8月26日	月	保健所		
	8月27日	火			
	8月28日	水			
	8月29日	木			
	8月30日	金			
4週目	9月2日	月	学内日		
	9月3日	火	市町村(地域包括支援センター)		
	9月4日	水			
	9月5日	木			
	9月6日	金			
5週目	9月9日	月	市町村		
	9月10日	火			
	9月11日	水			
	9月12日	木			
	9月13日	金			

年度 実習計画書(グループ用) 施設名()

週数	月日	曜日	実習場所	事業予定							
				午前				午後			
				学生名	学生名	学生名	学生名	学生名	学生名	学生名	学生名
1週目	7月22日	月	市町村								
	7月23日	火									
	7月24日	水									
	7月25日	木									
	7月26日	金									
2週目	7月29日	月	市町村								
	7月30日	火									
	7月31日	水									
	8月1日	木									
	8月2日	金	学内日								
3週目	8月26日	月	保健所								
	8月27日	火									
	8月28日	水									
	8月29日	木									
	8月30日	金									
4週目	9月2日	月	学内日								
	9月3日	火	市町村								
	9月4日	水									
	9月5日	木									
	9月6日	金									
5週目	9月9日	月	市町村								
	9月10日	火									
	9月11日	水									
	9月12日	木									
	9月13日	金									

実 習 記 録

実習施設 _____ 学籍番号 _____ 氏名 _____
 年 月 日 曜日 ※ 翌朝に実習指導者へ提出する。

本日の目標	
実施内容	気づきや疑問からの考察
カンファレンスのテーマ	カンファレンスの内容・学んだこと
指導者のコメント	

- ※ 実施内容には体験内容を経時的に書き、そこで得た情報や自分の印象も箇条書きで記入する。
- ※ 気づきや疑問からの考察には、体験した事柄から2つ以上を取り上げて、事実(利用者の発言・支援内容等)に対する利用者の反応等、個人・家庭・集団・地域の抱える課題や支援方法・内容について考察する。
- ※ 可能な限り参加事業や実施内容毎に PLAN-DO-SEE の思考過程で書くこと。

事業展開見学実施記録(事前学習)

※ 参加するグループで作成し、事業見学実施前日までに実習指導者へ提出する。

事業名 _____ 実習日 _____ 年 _____ 月 _____ 日(_____ 曜)
学籍番号 _____ 氏名 _____

1. 参加事業名
2. 背景法、関連の法律、市町村の各種計画との関連性
3. 住民の生活と事業の関連性について(事業実施の理由またはこの事業に期待される成果)
4. 対象者の特性
5. 学生の事業参加目的
6. 参加方法(事業内容)
7. 実施予定内容(実施項目など)

事業展開見学実施記録(事後学習)

※ 個人で作成し、事業見学実施翌朝に実習指導者へ提出する。

事業名 _____ 実習日 _____ 年 月 日(曜)
学籍番号 _____ 氏名 _____

1. 参加者の状況(予測した対象者と実際の参加者の違いも含めて)
2. 会場設営の工夫について(地理・時間・会場内の環境・対応・雰囲気・その他)
会場：
時間： : ~ :
対応・雰囲気：
3. 事業内容及び展開・実施内容(全体の流れ・プロセス)
4. 事業関係者の職種・役割分担(保健師及び他職種の役割分担、指導方法、指導内容、学生の実施内容も含む)
5. この事業は他のどの事業、どのような地区組織活動とつながっているか、つなげることができるか
6. 保健師のスキル
7. 気づき・感想

家庭訪問記録 ②

学籍番号 _____ 氏名 _____ 同伴指導者 _____

※家庭訪問実施翌朝に実習指導者に提出する。**手書きで記入**

5. 訪問時の状況・反応・ケアの内容

6. 評価と今後のケア計画 (学生自身のケアに対する評価を行い、この事例の訪問時の状況をアセスメントし、対象者及び家族のニーズ・問題点をもとに今後のケア方針を立てる)

【指導者のコメント】

家庭訪問記録 ③(継続記録)

学籍番号 _____ 氏名 _____ 同伴指導者 _____

※ 継続家庭訪問事例の際に家庭訪問実施前日までに7～11を記入し実習指導者に提出する。**手書きで記入**

7. 次回(回目)の訪問計画

訪問予定日: 年 月 日 時 分

8. 次回(回目)の訪問目的

9. (回目)訪問までの経過および事前に把握した情報(情報源)とアセスメント

10. 訪問計画

11. 訪問時の状況・反応・ケアの内容

12. 評価と今後のケア計画(学生自身のケアに対する評価を行い、この事例の訪問時の状況をアセスメントし、対象者及び家族のニーズ・問題点をもとに今後のケア方針を立てる)

【指導者のコメント】

集団健康教育指導案 ※グループで1部提出する

主題 _____ 実習場所 _____ 実施日 _____ 年 _____ 月 _____ 日 _____ 曜日 _____ 学籍番号 _____ 氏名 _____

企 画	教 育 計 画 ①					
	過程	内 容	学 習 活 動 (セ リ フ)	留 意 点	担 当 者	必 要 物 品 (教 材)
目的・目標	導入 (分)					
健康教室の実施理由 (法的根拠と地区の特徴)	展開 (分)					
対象者						
方法(所要時間・場づくり・その他)						

企 画	教 育 計 画 ②					
		内 容	活 動 (セ リ フ)	留 意 点	担 当 者	必 要 物 品
教育媒体	まとめ (分)					
学生の役割						
評価の視点						
指導者評価						

集団健康教育結果(実施と評価・感想) <個人記録> ※健康教育実施翌朝に実習指導者へ提出する。

主題 _____ 実習場所 _____ 実施日 _____ 年 月 日 曜日 _____ 学籍番号 _____ 氏名 _____

当日の役割:	評価項目	評価				
【実施と評価】	<評価点>5: と思う 4: ややと思う 3: どちらともいえない 2: あまりそう思わない 1: そう思わない					
	① 地域における健康教育の位置づけは明確だった。	5	4	3	2	1
	② 集団健康教育の目標・テーマは明確で適切だった。	5	4	3	2	1
	③ 集団健康教育の内容と導入は適切だった。	5	4	3	2	1
	④ 学習内容の順序は適切だった。	5	4	3	2	1
	⑤ 学習内容に適した方法を計画できた。	5	4	3	2	1
	⑥ 時間配分は適切だった。	5	4	3	2	1
	⑦ 役割分担は適切だった。	5	4	3	2	1
	⑧ チラシ(パンフレットなど)は興味や関心をひくものだった。	5	4	3	2	1
	⑨ チラシ(パンフレットなど)に必要事項が記載されていた。	5	4	3	2	1
【感想】	⑩ 学習内容は理解しやすいように説明できた。	5	4	3	2	1
	⑪ 教材・教具の提示および使用は適切だった。	5	4	3	2	1
	⑫ 参加者の発言を正しくとらえ適切な対応ができた。	5	4	3	2	1
	⑬ 参加者への配慮ができた。	5	4	3	2	1
	⑭ 参加者全体の反応を確認しながら健康教育を進めた。	5	4	3	2	1
	⑮ 関係者と連絡・調整が適切にできた。	5	4	3	2	1
	⑯ 反省会は評価により改善点や工夫点を列挙できた。	5	4	3	2	1
	⑰ グループ内で計画的に準備を進めることができた。	5	4	3	2	1
	⑱ グループ内で意見交換しながら準備できた。	5	4	3	2	1
	⑲ グループで決めた役割を十分果たせた。	5	4	3	2	1
	⑳ 健康教育における保健師の役割について認識することができた。	5	4	3	2	1

[]市町村(地域包括支援センター含む)の公衆衛生看護活動一覧 ※グループで1部作成 実習最終日に提出

ライフステージ	<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> ← (地域保健) (学校保健) (職域保健) → (地域保健) → </div>											
	妊娠 出産		小学校入学			中学		中学校卒業				
	新婚期	妊娠期	新生児期	乳幼児期	学童期	中高校生	青年期 (18歳～)	壮年期 (22歳～44歳)	中年期 (45歳～64歳)	前期高齢期 (65歳～74歳)	後期高齢期 (75歳～)	
保健指導・相談 (関係法規)												
家庭訪問 (関係法規)												
健康教育 (関係法規)												
地域組織活動												
地域ケアシステム												
その他 (予防接種・給付・ 人材育成・研修等)												

学生氏名

作成日

年

月

日

[] 保健所の公衆衛生活動一覧 ※グループで1部作成 実習最終日に提出

ライフステージ	← (地域保健)		← (学校保健)		← (職域保健)			← (地域保健)	
	出産		小学校入学		高校卒業				
	新婚期 妊娠期	乳幼児期	学童期	中高校生	青年期 (18歳～)	壮年期 (22歳～44歳)	中年期 (45歳～64歳)	前期高齢期 (65歳～74歳)	後期高齢期 (75歳～)
母子保健									
学校保健									
成人保健									
高齢者保健									
精神保健									
障がい者対策									
難病対策									
結核対策									
感染症対策									
研修関係									

学生氏名

作成日

年

月

日

地域診断用情報記録 地区診断エリア名 _____ ※ グループで1部作成

※ 地区踏査の方法：仮説検証（あらかじめ仮説を立てて地区踏査で実証していくこと）と事実検証（憶測せずに事実をありのままに感じること）で得られた情報を繋ぎアセスメントする
 ※ 記入スペースが不足する場合は別紙を作成する。

	領域	既存資料情報(資料からの情報抽出) ※健康に貢献するプラス情報は青、阻害するマイナス情報は赤で記入。	地区踏査情報(インタビューや観察) ※インタビューか観察かを分けて記入	情報源	顕在化・潜在化している健康課題のアセスメント 発生予防に役立っている健康要因・生活要因
地域にくらす人々	1.歴史				
	2.人口動態				
	3.住民の様子				
	4.価値観と信条				
地域を構成する要素	1.物理的環境				
	2.保健医療と社会福祉				
	3.経済				
	4.安全と交通				
	5.政治と行政				
	6.コミュニケーション				
	7.教育				
	8.レクリエーション				
地域の印象	1.住民				
	2.自分の認識				

地域診断：実習事前診断 ※グループで作成 実習初日に提出

地区診断エリア _____

学生氏名：

実習前に得られた情報から判断した地域診断と判断した根拠（例：構成要素のどんな情報から導きだしたか）

年 月 日

実習地域の健康課題

<健康課題の根拠となる情報>

<情報をもとに健康課題を導きだすためのアセスメント>

地域診断：実習事後診断 ※グループで作成 前半カンファレンス当日に提出

地区診断エリア _____

学生氏名：

※ 事前の情報に追加した情報は下線を引く等、区別できるように記入

年 月 日

実習地域の健康課題

<健康課題の根拠となる情報>

<情報をもとに健康課題を導きだすためのアセスメント>

インタビュー用 記録シート（計画および結果記録）※グループで作成

※ インタビュー前日までにインタビュー内容を記入し実習指導者へ提出、実施翌朝にインタビュー結果を記入し実習指導者へ提出

学籍番号

氏名

日 時	年 月 日 : ~ : (分間)	
対 象	性別：男性 女性	年齢 年代 * 推定でも可
	地域の中での役割：	
場 所 (状 況)		
インタビュー内容		
インタビュー結果		

事例検討記録用紙

* 手書きで記入すること

実習場所： _____ 学籍番号： _____ 氏名： _____

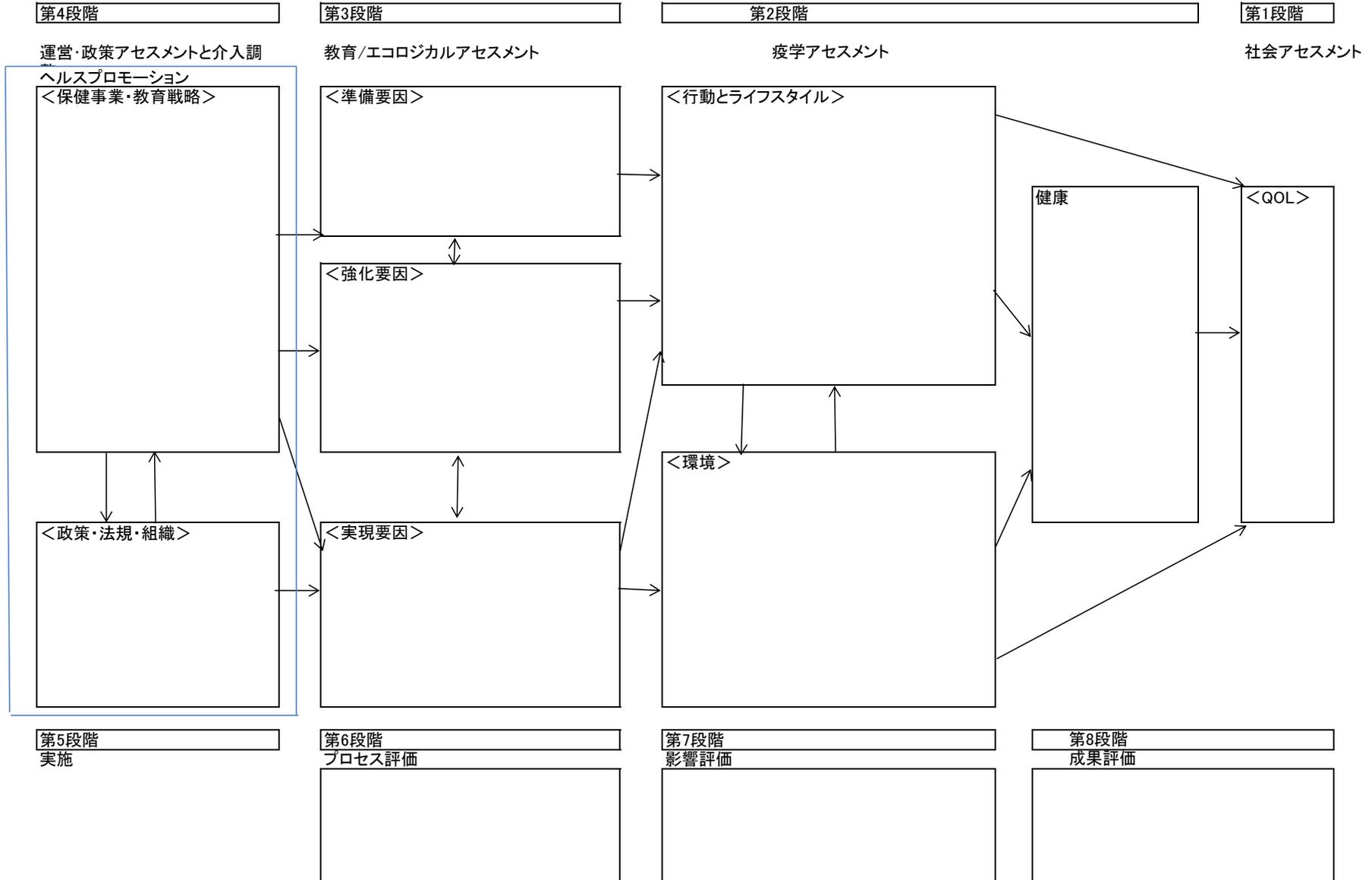
対象	事例	性別	年齢	歳代	記録日： 年 月 日 ()
アセスメント					
健康課題					
支援の方向性					
行動計画 (保健指導計画など)	〈目標〉 〈方法〉				
実施・ 評価					
学び・ 感想					

プリシード・プロシード/モデル

実習施設: (地域診断エリア:)

学生氏名:

プリシード



プロシード

企 画 書

※グループで1部作成 最終カンファレンス当日の朝に提出

年 月 日 学生氏名

企画名	
目的 ねらい	
目標	
背景・理由 現状 実態 課題 必要性 法的根拠 など	

<p>事業内容</p> <p>対象 期間 内容 方法 など</p>	
<p>協力者</p>	
<p>実施期間</p>	
<p>経費</p>	
<p>期待する 効果</p>	
<p>評価指標</p>	
<p>評価時期</p>	

公衆衛生看護学実習評価票 (市町村・地域包括支援センター等)

実習施設	保健所管内	市町村	学籍番号	氏名					
項目					主観的評価				評価の根拠
目標1	1	自然環境・歴史・文化と、人々の生活様式の関連を探ることができた。			4	3	2	1	
	2	既存の資料とインタビューにより、地域の健康課題を把握することができた。			4	3	2	1	
	3	地域住民の顕在的健康課題、潜在的健康課題の予測をすることができた。			4	3	2	1	
	4	地域住民のライフステージ別の健康課題間の関連を説明することができた。			4	3	2	1	
	5	実習地域のフィールド調査から見た既存の社会資源の利用上の課題を述べる事ができた。			4	3	2	1	
	6	公衆衛生看護学活動は情報収集、アセスメント、診断、計画、実施、評価の一連の過程(PDCAサイクル)をとることが理解できた。			4	3	2	1	
目標2	7	法律に基づいた保健・福祉サービスの実際を知ることができた。			4	3	2	1	
	8	個人・家族・集団への関わりに参加し、人々の持つ力を引き出すための、個別支援と組織的アプローチを組み合わせた活動展開を理解できた。			4	3	2	1	
	9	家庭訪問や健康相談等を通して、個人・家族等のニーズに応じた支援の計画・実施・評価(施策化)を実施することができた。			4	3	2	1	
	10	健康教育や健康診断等を通して、具体的な健康課題に対する必要な情報収集、支援計画、実施、評価と、集団を対象とした支援方法の展開ができた。			4	3	2	1	
目標3	11	環境、人びとの生活、健康課題と、実施されている事業を関連させ、地域の特徴、生活実態に合わせた事業展開の工夫を述べる事ができた。			4	3	2	1	
	12	住民と信頼関係を築きながら地区組織活動・当事者グループ等の成立、発展の経過、地域における位置づけについて地域に存在する組織やグループの活動を理解し、共通の活動目的を見出していき、その目的と方法を理解できた。			4	3	2	1	
	13	健康課題解決のために地域の人々・関係者・関係機関と協働することの意義を述べる事ができた			4	3	2	1	
目標4	14	公衆衛生看護と施設内看護の連携について自分の考えを述べる事ができた。			4	3	2	1	
	15	参加する連携調整会議で取り組まれている健康課題について、地区診断を踏まえて説明することができた。			4	3	2	1	
	16	地域ケアシステムの構築・運営にかかわる連携調整会議の必要性を理解し、関係職者や機関と互いの役割を認め合い共通の問題解決に取り組むプロセスを知ることができた。			4	3	2	1	
目標5	17	健康課題を解決するために、必要な社会資源を理解することができた。			4	3	2	1	
	18	公衆衛生看護の目的と特徴を述べる事ができた。			4	3	2	1	
参加	19	行政保健師の役割、職業倫理を述べる事ができた。			4	3	2	1	
	20	目的、目標を明確にして実習に臨み、必要時変更を加えながら目標を達成できた。			4	3	2	1	
	21	限られた時間の中でも、効率的、効果的に実習に取り組むことができた。			4	3	2	1	
	22	多くの住民や関係者と良い関係をつくる事ができた。			4	3	2	1	
	23	日々のカンファレンスで、他者と学びを共有したり、多様な角度から討論ができた。			4	3	2	1	
全体を通しての感想	24	記録を通して1日を振り返り、学びを整理しながら実習を展開できた。			4	3	2	1	
	25	中間カンファレンス、最終カンファレンスを通して、P-D-S-Sを体験できた。			4	3	2	1	
					100				
指導者のコメント									評価記入日 年 月 日 出席状況 出席 日 欠席 日 早退 日 遅刻 日 指導保健師氏名

(4:よくできた 3:できた 2:あまりできなかった 1:できなかった)

公衆衛生看護学実習評価票（保健所等）

公衆衛生 様式14-2

実習施設	保健所管内	市町村	学籍番号	氏名	主観的評価					評価の根拠
項目					5	4	3	2	1	
目標1	1	地域の人々の生活と健康に関する情報を多角的・継続的に収集とその情報を根拠に分析することができた。			5	4	3	2	1	
	2	顕在的健康課題、今後起こりうる潜在的課題等を理解できた。			5	4	3	2	1	
	3	アセスメントにより地域の管内の自然環境、社会資源(公害を含む)健康課題等を理解することができた。			5	4	3	2	1	
目標2	4	広域における保健・医療・福祉のネットワークシステムが作られる過程を理解できた。			5	4	3	2	1	
	5	施策に背景にある法律や条例を調べ、理解できた。			5	4	3	2	1	
	6	連絡調整会議の法令等の根拠、開催までの経緯、目的、出席者の役割を説明できた。			5	4	3	2	1	
目標3	7	事例を通して、専門的知識・技術、社会資源の活用方法を理解し、適切な支援計画の立案ができた。			5	4	3	2	1	
	8	事例検討場面で、参加者として積極的に役割をとることができた。			5	4	3	2	1	
	9	事例のニーズが集積されて事業に発展していく過程を理解し、保健師の役割についても理解することができた。			5	4	3	2	1	
目標4	10	保健所等の日常業務と健康危機予防の関連が理解できた。			5	4	3	2	1	
	11	管内で健康危機が発生した時の連携した動きが理解できた。			5	4	3	2	1	
	12	実習地域で実施されている健康危機管理についてその内容と起こる背景を説明することができた。			5	4	3	2	1	
目標5	13	地区組織や当事者グループ等のニーズを明らかにし、地域社会資源としての成長や発展の過程を理解できた。			5	4	3	2	1	
	14	管内事業所及び市町村と保健所等が連携・協働して地域づくりを進める過程が理解できた。			5	4	3	2	1	
目標6	15	公衆衛生を守るうえでの保健師の役割について自分の考えを述べる事ができた。			5	4	3	2	1	
	16	公衆衛生について自分の考えを、記述することができた。			5	4	3	2	1	
参加	17	目的、目標を明確にして実習に臨み、必要時変更を加えながら目標を達成できた。			5	4	3	2	1	
	18	限られた時間の中でも、効率的、効果的に実習に取り組むことができた。			5	4	3	2	1	
	19	記録を通して1日を振り返り、学びを整理しながら実習を展開できた。			5	4	3	2	1	
	20	各種のカンファレンスを通して、他者と学びを共有したり、多様な角度から討論ができた。			5	4	3	2	1	
全体を通しての感想					/ 100					評価記入日 年 月 日
指導者のコメント										出席状況 出席 日 欠席 日 早退 日 遅刻 日 指導保健師氏名

(5:よくできた 4:できた 3:どちらともいえない 2:あまりできなかった 1:できなかった)